

21世紀のビジネス発信基地

南国オフィスパーク

21世紀のビジネス発信基地として注目を浴びている南国オフィスパーク。

今年2月に、進出企業に対する業務支援施設として、南国オフィスパークセンターが竣工し、より一層充実されました。広報委員会は、この新しく完成した同センターなどを訪問し、取材をしました。

■南国オフィスパーク事業の概要

平成5年2月に「なんごく・こうち地方拠点都市地域」を高知県知事から受け、同年3月に承認された「なんごく・こうち地方拠点都市地域基本計画」の中の重点事業である「南国オフィスパーク事業」が、平成6年1月から地域振興整備公団の主体のもと整備が進められました。

「なんごく・こうち地方拠点都市地域基本計画」とは、県勢をリードする都市機能が集積している高知市と、陸・海・空の高い交通拠点性と潜在力を有している南国市および周辺の香美郡8ヶ町村を含めた10市町村が一体となり「職・住・遊・学」の総合的な整備を図ることによって、若者の定住を促進し、県勢発展の核

となる地域を形成することを目的に、平成5年から10年間を見通した計画です。

▼構成10市町村は、南国市・高知市・赤岡町・香我美町・土佐山田町・野市町・夜須町・香北町・吉川村・物部村の2市6町2村です。

■整備の目的

南国オフィスパークがある蛸が丘地区は、四国自動車道南国IC、高知空港、高知新港への交通アクセスが容易で、また隣接地の高知工科大学との連携が図られる位置に立地しています。

この立地条件から、研究所、情報処理業などの先端業種を集積することにより、若者の就業の場を確保するとともに、先端産業の導入により地域産業の活性化を図ります。

平成10年3月撮影

南国オフィスパーク全体図

北西の入口ゲートサイン



左：株アイビス 右：株四国銀行



▲南国オフィスパークセンター



▲親水公園
領石川のせせらぎが聞こえます。



▲多目的調整池
晴れた日はテニスもできます。



▲地名にちなんだ蛭が丘橋
人にやさしく、木をふんだんにとり入れてます。

オフィスパーク開発状況
 開発面積/19.40ha
 分譲面積/11.65ha 19区画
 センター/0.55ha
 公共用地/7.20ha

南国オフィスパーク分譲状況

企業名	区画
株四国銀行	A
株アイビス	B1
ヒワキコンピュータシステム	B2
株ヤクオー	J
株高知放送	K
株高知新聞社	L・M
富士通株	P
株信貴精器	N
サピオ株	Q

※株信貴精器とサピオ株は協定の段階です。

■南国オフィスパーク事業の主な経緯

- H5. 2. 8 ▼なんごく・こうち地方拠点都市地域の指定
- H6. 1. 12 ▼南国オフィスパーク事業として事業採択
- H6. 4. 25 ▼株南国オフィスパークセンター設立
- H7. 1. 31 / 造成工事着工
- H7. 7. 12 / 分譲開始
- H9. 7. 11 ▼町名を蛭が丘に変更
- H11. 6. 29 ▼株南国オフィスパークセンター社屋建設着工
- H12. 2. 15 ▼株南国オフィスパークセンター社屋建設完成